

はじめに

平成から令和へと年号が変わり、新たな時代が幕を開けました。平成は災害の時代だったと言われますが、ちょっと振り返っただけでも平成3年の雲仙・普賢岳の火砕流、平成5年の北海道南西沖地震、平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成23年の東日本大震災、平成26年の御嶽山噴火、平成28年の熊本地震、そして平成30年の大阪府北部地震、北海道胆振東部地震と西日本豪雨が思い出されます。平成の時代には地震による被害が多かったように思われますが、令和になった今年は全国的にも台風による被害が大きく、テレビでは『経験したことのない』という言葉が頻繁に聞かれるようになりました。雨の降り方は尋常でなく、観測史上初めてが各地で報告されました。これは地球温暖化の影響だと思われませんが、これから先、令和の時代は地球温暖化の影響が猛威を振るうのでしょうか。近くを流れる犬上川の増水を見る度に不安な思いに駆られます。

昨年、彦根市立病院は地域医療支援病院の認可を受けました。そして地域の診療所や病院との連携をより強化するために、地域連携センターを充実させました。現在では地域連携センターを中心に、地域の医療機関との連携は深まってきたように思います。国は地域包括ケアシステムの構築を進めようとしています。病院が地域包括ケアシステムとどのように関わっていくかを考えた時、キーとなるのは地域連携センターです。そう考えますと、今後は医療だけではなく介護との連携も求められてきます。地域連携センターは更に充実させていく必要があると考えていますので、ぜひ地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和元年度の病院年報が完成いたしました。当院の診療科、診療部門における1年間の実績の集大成でございます。十分にご評価いただいた上で、忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

ようやく厳しい残暑もおさまり、ひんやりとした空気が気持ちよく感じられるようになりました。今年は残暑が長かったせいか、秋が短いように感じられます。アメリカでは秋分の日の3週間後に大雪が降ったとニュースで報道されていました。考えられないことです。今年の冬はどうなるのでしょうか。大雪による災害が起きないように、祈るばかりでございます。皆様にはくれぐれも体調を崩されませぬよう、ご自愛いただきたいと思います。

令和元年10月25日 病院事業管理者兼病院長

金子 隆昭